

びびぎ



No. 15

ドラム缶工業会会報

ドラム缶工業会の1997年の活動方針について

さる1月24日、ドラム缶工業会の新年賀詞交換会において、工業会を代表して挨拶にたった山口理事長から、ドラム缶工業会の本年の課題・活動方針の要旨が次のとおり発表されました。

山口理事長は、冒頭に「1997年は年初から〔ナホトカ号海難・重油流出事故〕が発生し、あわただしい年明けとなった。ドラム缶工業会としても、この災害に対して3,500本の200ℓオーブンドラムの無償提供を含む約35,000本のドラム・ペールを福井県、石川県を始め、7府県にお届けした」と挨拶された。

引き続きドラム缶工業会の活動方針について、理事長は次のように述べた。

今年のドラム缶業界を取り巻く環境は、残念ながら明るいとは言えない。1996年のエチレンの生産量（需要家業界である化学業界の活動指数といわれている）は、約714万トンと史上最大であったにもかかわらず、ドラム・ペールの需要の回復につながらなかったことは、化学業界の物流に構造的な変化が起こっていることを示していると思われる。従って、今年もドラム・ペールの出荷量は昨年と同水準にとどまると予想される。

一方、ドラム缶業界の中でも新しい動きが始まっており、大競争時代を迎えたと考えられる。ドラム缶工業会会員各社は、この時期に当たり経営基盤の強化を図られ、需要業界への混乱を招くことがないように努力することが肝要と考える。

このような背景のもとに、ドラム缶工業会としてはこの1年間、次の四つの点に重点を置いて工業会の活動を進めていきたい。

まず第一は、技術力の強化と品質の向上である。幸いなことに、数年前から工業会の活動として定期的に会員各社の工場見学会と技術発表会を行っており、お互いにフランクな技術交流が確立しつつある。このような交流の輪を拡げ、お互いに他社の良い面を参考にし合い、工業会全体の



技術力の強化と品質の向上に寄与していきたいと考える。さらに、各社共通の技術課題について共同研究を行い、技術の向上を図りたい。

第二は、需要業界との連携を強めることである。ドラム・ペールの需要家とは会員各社が日常それぞれの立場で密接に連携をとり、情報を収集しておられるが、工業会として需要家工業会と話し合いの場を持つ機会はほとんどなかった。今年は、日本化学工業協会と定期的な懇談会の場を持ちたいと思っている。すでに先方に対し懇談会開催の提案をしたところ、快諾の返事をいただいております。近日中に開催の運びとなっている。この懇談会を通じて、お互いの業界の状況を説明し合い、需要家業界のドラム・ペールに対する要望や、両業界共通の課題である物流問題について意見交換を行うことにより、業界同士の相互理解を深めたい。さらには、この活動が両業界のお互いの合理化に寄与することを期待している。

第三は、環境保全に対する積極的なPRである。鋼製ドラムは洗浄することにより数回リサイクル出来るというシステムが完成されており、地球にやさしい、環境保全型の商品である。更生缶工業会と共同で「クリーンリサイクル・ロゴマーク」を制定した。このロゴマークは、ドラム更生業者国際連盟（ICDR）でも採用されているが、ロゴマークに限らず、さらに積極的に環境問題への活動を拡げ、業界のイメージアップを図りたい。

第四は、国際協調活動の推進である。現在、前理事長の

永井潤氏が国際ドラム製造業者連合会（ICDM）の会長を務められており、日本がリーダーシップをとる立場にある。国際的に共通の課題についての議論を活性化し、グローバルな視野で業界の発展に寄与したい。また、アジア・オセアニア地域の団体であるAOSD（アジア・オセアニア鋼製ドラム製造業者協会）の国際会議が来年の2月にインドのムンバイ（ボンベイ）で開催されることになっている。アジア諸国のドラムメーカーは、日本のリーダーシップを大いに期待しているので、来年の国際会議を期待通りの成果が得られるよう準備を進めなければならない。

以上四項目に重点を置いて工業会の運営に務めていきたい。会員の皆さんも、今年は多難な年となりそうであるが、足を地に着けて企業体質の強化に当たられると共に、工業会の活動に積極的なご協力をお願いしたい。

.....◆.....◆.....◆.....

新年賀詞交換会には、通商産業省基礎産業局 林製鉄課長、吉田課長補佐、榊口二次製品係長も出席され、林課長から、ナホトカ号による重油流出事故に対する工業会の迅速な対応に対する謝辞が述べられた。

.....◆.....◆.....◆.....

当日は、正会員、賛助会員のメンバーに加えて、通商産業省、歴代理事長、元委員長、日本ドラム缶更生工業会代表、マスコミの方々等をお招きしましたが、出席者約110名が和気あいあいとして新年の挨拶と活発な交流が行われ、懇親を深めました。

ナホトカ号海難・流失油 事故に対する ドラム缶工業会の対応について

今回のロシアタンカー・ナホトカ号の日本海での重油流失事故は、予想をはるかに上回る被害が沿岸7府県に及びました。

通商産業省・製鉄課から流失重油の回収容器としてドラム缶の緊急出荷要請がありましたので、工業会では直ちにドラム缶の支援策を決定し、各会員工場のオープンドラムの供給余力を調査して、出荷要請に対応出来るような体制をとり、併せて需要業界団体の石油連盟および日本化学工業協会にもドラム缶の供給要請があれば協力することを連絡いたしました。

流失重油被害の拡大に伴い、被害府県の災害対策本部からオープンドラムの緊急出荷要請が相次ぎましたので、会員各社の協力を得てその要請に応えましたが、トラックの手配が思うようにいかず搬入には各社とも非常に苦勞しました。

2月末現在で、会員各社が被害各地に出荷したオープンドラムは、約35,000本となりましたが、この中には会員5社が4府県に無償提供した約3,500本も含まれております。

今回の流失重油対策として、数ある回収容器の中でも、ドラム缶が最も運びやすく、取扱いも便利で、その上強度

ドラム缶 (含むペール缶) の 写真募集について

このたびドラム缶工業会は下記の要領でドラム缶（含むペール缶）をテーマとした写真の募集を行うことになりました。皆様からの応募作品をお待ちしております。

記

1. テーマ：ドラム缶（含むペール缶）をテーマとした写真。
2. 募集目的：工業会会報「ひびき」に掲載し、ドラム缶の有用性をPRする。
3. 応募上の注意：(1) 他のコンテストに応募した写真でも結構ですが、入賞作品の応募はご遠慮下さい。
(2) 作品には会社名、氏名、電話番号を添付して下さい。
(3) 応募作品は原則として返却致しません。
4. サイズ：サイズは自由。白黒・カラー何れでも可。
5. 応募資格：特に問わない。
6. 締切：平成9年9月末日
7. 提出先：ドラム缶工業会
〒103 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10
8. 審査：応募作品は、ドラム缶工業会企画委員会で協議し、「ひびき」に掲載が決定した場合は、ドラム缶工業会から粗品を進呈します。
11月末迄に、粗品の送付をもって採用の発表に代えます。
9. 連絡先：ドラム缶工業会 事務局
電話：03-3669-5141
ファックス：03-3669-2969



もあることから、容器としての利便性と有用性が改めて見直され、評価されたのではないかと思います。

ドラム缶は業務用が主体のため、一般の方には普段はあまり縁のないものですが、テレビ・新聞による連日の重油流失事故関連報道のため、ドラム缶が身近なものとなり、その話題性から一般のテレビ番組にも登場し、NHKでも小学生向けのバラエティ番組に「ドラム缶には何故節があるか?」といった話題が取り上げられる予定になっております。

今回、図らずも回収容器としてドラム缶が注目を浴びましたが、本来の特性である「強固で安全性が高く、リサイクル性に富む地球に優しい容器」であることをさらに強調して、今後とも輸送・貯蔵容器として物流の一端を担い、更なる貢献を果たしたいと思っております。

最後に、重油流失事故の被害を受けられた各府県の皆様に心からお見舞い申し上げますと共に、今後このような事故が繰り返されないことを切に祈ります。



不思議に思うこと

ペルーの日本大使公邸人質事件で、当事国であり、人質の多数は日本人であるにも拘らず橋本首相はカナダまで呼び出された。他方、人質が解放された米国、その後英国へはフジモリ大統領が出向いているのは何故なのか?

ナホトカ号事件では、我がドラム缶工業会も多大な協力を措きまなかった。三国町沖で座礁したタンカー船首部分からの重油抜き取り作業が終了した。この重油、また漂流中の油塊の所有権は誰にあるのか、ロシアの物が、それなら保税扱いか、それとも遺失物なのか、勝手に処理して良いものか?

新十二支ではリスが加わり、リス、トラ、サルと続く。大手企業のリストラが進み、サルとなった余剰人員がどこに消えたのか?これから官公庁でも新十二支起用とのこと。日本はどれ程懐が深いのか?

(栴田 温)

平成8年(1~12月)ドラム缶・缶種別・用途別出荷本数

単位：千本

用途		石油	化学	塗料	食料品	その他	合計	前年比
200	Q 缶	1,843	8,782	798	117	320	11,860	100.1
ペ	ー ル	13,175	10,728	1,054	—	749	25,706	100.3
100	Q 缶	9	169	4		2	184	107.4
50	Q 缶	微	290			微	290	108.5
ア	ス 缶 型	9	8				17	35.8
その他容量缶		3	697			7	707	100.3
200 Q	亜鉛鉄板缶	2	103	6	2	9	122	109.1
	ステンレス缶		17	1	微		18	115.7
	小 計	2	120	7	2	9	140	109.9
中 小 型	亜鉛鉄板缶		219	1		微	220	104.7
	ステンレス缶		5	微			5	83.6
	小 計		224	1			225	104.2
合 計		15,041	21,018	1,864	119	1,087	39,129	100.3
構 成 比		19.2	70.8	6.3	0.9	2.8	100.0	

(注) 構成比は、ドラム缶の出荷トン数の構成比。

**DATA
FILE**



東邦シートフレーム
株式会社

今年で創業60周年を迎える当社は、TOHOドラムとしての生産を1969年に開始して以来、常に業界に先駆けたTOHOの技術力を結集して各分野に対応可能な各種容器の製造・販売に努めてきております。

とくに今年にはドラム部門のISO受審を5月に控え、“品質方針”として“顧客優先を基本”とし、「磨こう品質、築こう信頼」をスローガンに邁進いたします。その上さらに、時代の様々なニーズに対して確かな技術でお応えできるよう、システム容器部門の強化を図り、従来の「キミツ」関連製品以外に新規製品として、海外との販売提携に基づく半導体向けPTFE製「ナウパック」をはじめとして、1m~3m中型丸形コンテナの販売にも着手し、決意を新たにしております。



株式会社
長尾製缶所

当社は、各種小中型ドラム缶を初め、ペール缶、20Q・18Q角缶、4Q角缶、1Q丸缶、各種小型容器にいたるまで、ユーザーのニーズに細かく対応すべく製品群ごとに、材質、機能、デザインの豊富なバリエーションを生産できる体制を整えています。

来年の創業80周年に向け、本年度は、本社新事務所の建設、合理化の一環として、本社工場の生産ラインの大々的なレイアウトおよび、生産体制の見直し、千葉工場の拡充を行い、新たなスタートをいたしました。

長尾製缶所は、より良質で安価な製品を安定かつ迅速にお届けすることをモットーに、総合的な観点からユーザーのメリットを追求し、新しい可能性をもつ時代の容器の創造をめざして、しなやかにダイナミックに前進してまいります。

ドラム缶工業会

東京都中央区日本橋茅場町3-2-10

(鉄鋼会館3階)

TEL 03-3669-5141 FAX 03-3669-2969

- ADK 秋田ドラム工業株式会社
秋田市土崎港北6-2-22 ☎ 0188-45-1105
-  川鉄コンテナ株式会社
大阪市北区堂島浜2-1-29 ☎ 06-344-9711
-  協和容器株式会社
新潟市下木戸2-4-20 ☎ 025-274-0371
-  鋼管ドラム株式会社
東京都中央区銀座8-11-11 ☎ 03-3574-0711
-  斎藤ドラム缶工業株式会社
横浜市鶴見区生妻3-15-14 ☎ 045-521-3881
-  山陽ドラム缶工業株式会社
岡山県倉敷市中島1230 ☎ 0864-65-3680
-  新邦工業株式会社
東京都千代田区神田佐久間町4-18 ☎ 03-3861-5285
-  ダイカン株式会社
大阪市此花区島屋2-11-63 ☎ 06-466-4601
-  大同鉄器株式会社
尼崎市杭瀬南新町3-2-21 ☎ 06-488-2468
-  株式会社東京ドラム罐製作所
東京都葛飾区東四ツ木2-23-16 ☎ 03-3695-8511
-  東邦シートフレーム株式会社
東京都中央区日本橋3-12-2 ☎ 03-3274-6212
-  株式会社長尾製缶所
和歌山県有田郡吉備町野田144 ☎ 0737-52-2591
-  日鐵ドラム株式會社
東京都江東区亀戸1-5-7 ☎ 03-5627-2311
-  株式会社前田製作所
東京都港区新橋1-5-5 ☎ 03-3573-7101
-  森島金属工業株式会社
千葉県佐倉市大作2-5-5 ☎ 043-498-3551
-  株式会社山本工作所
北九州市八幡東区大字枝光1950-10 ☎ 093-681-2431
-  株式会社ユニコン
大阪府高石市高砂2-7 ☎ 0722-68-0515

ひびき No.15(平成9年2月24日発行)

発行人 ドラム缶工業会
専務理事 柴野 正裕

本誌は再生紙を使用しています。